

## 事例番号 46

Keywords: 知的障害, 自閉症, スイッチ, LL ブック, 電子絵本, プレゼンテーションソフト, 障害に基づく困難の改善, 指導目標の達成

### タイトル

- ・プレゼンテーションソフトを用いた国語の授業  
—知的障がいのある自閉症生徒への文脈理解のための支援—

### 事例の対象となる児童生徒について

支援学校高等部在籍の自閉症児，療育手帳 A 判定の生徒のグループ。文字はひらがなの習得は，ほぼ出来ているが，朗読をさせると逐次読みの段階であった。そのため，文章を読んで，単語の意味や文脈の理解が難しい状態にあった。

### 使用する機器（支援機器）名称と特長

支援機器の名称

パソコン，外部スイッチで，左ボタンを押せるように改造したマウス，外部スイッチ（プッシュタイプ：ジェリービーンスイッチ），モニター

### 使用した機器を選定した理由

易しい文学作品に PIC シンボルおよび JIS の絵記号を用いて LL ブック化（Lättläst:優しく読みやすい本）を行い，単語の意味や概念を理解するための支援を行った。また，文章に興味を持たせ，文章の理解を促すためプレゼンテーションソフトを利用し，文章のデジタル化を図り「お話」の展開をイメージ化することにした。対象児自らが「お話」の進行が出来るよう改造したマウスに外部スイッチを接続し利用することにした。

### 選定のプロセス

対象児は，身体的な障がいがないため，特別な機器による支援は必要がないと考えた。しかし，プレゼンテーションソフトの進行を簡単に確実にを行うためにマウスやキーボードの操作は避け，外部スイッチを利用することが有効であると考えられた。

### 個別の指導計画と個別の教育支援計画

対象児の国語学習における目標は，ことばに対する興味を持たせ，文脈の理解を促すことを優先課題においた。また，将来の余暇活動に本に興味を持ち，読書を取り入れられるように考えた。

### 指導の内容

年間を通して，4 作品の絵本を LL ブック化し，「お話」を読みやすくするとともに単語の意味や概念の理解をしやすくする工夫を行った。さらに，プレゼンテーションソフトによって電子絵本化した。電子絵本は，導入の段階では，登場人物の画像を強調し，文章は，最低限の表示を行った。展開の段階では，シンボルを添えた文章を強調するような電子絵本にした。文章は，自分のペースで読めるようにボタンを押すと「お話」が進行するようにした。

第1次	お話を聞く	・読み聞かせによって題材を知る	読み聞かせをする
第2次	電子絵本を楽しむ	・スイッチを押し、アニメーションを楽しみながら、ストーリーを理解する	外部スイッチにより、アニメーションを楽しませる
第3次	文章を読む	・LLブック化されたテキストを読む	シンボルによってことばの意味を確認させる
第4次	電子絵本を読む	・電子絵本のテキストを読む	テキストに注目させる

### 支援機器の使用効果あるいは、指導の効果と支援機器の評価

印刷されたテキストでの学習は、集中が続かず、一度読むと逸脱してしまう傾向にあった。電子絵本には、興味を示し、離席や逸脱が起こらなかった。はじめ、スイッチを提示すると次々にページをめくってしまったが、場面を楽しめるようになるとページごとのアニメーションを最後まで、見られるようになった。第3次で、印刷のテキストに戻るとテキストを他の生徒と一緒に最後まで、読み通せるようになっていた。第4次では、他の生徒と一緒に電子絵本のテキストを読むことが出来るようになった。

### まとめと今後の課題

LLブックの利用と電子絵本の利用によって本に興味を持たせることが出来た。自分で、スイッチを押して「お話」を進行させることで、自らが関わり、自分のペースで絵本を楽しめることから積極的に学習に参加出来るようになったと考えられる。

学習進行に合わせて電子絵本の構成を変えていく必要があるため、どのような構成が有効であるのか検討をしていきたい。

※ 本事例（特別支援教育教材ポータルサイト掲載事例）は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「特別支援学校におけるアシスティブ・テクノロジーの活用ケースブックー49例の活用事例を中心に学ぶ導入、個別の指導計画、そして評価の方法ー」（2012/3）に記載された内容である。